

市民・事業者・行政が協働し 環境先進都市実現をめざすひらかた環境ネットワーク会議 会報誌

NO. 65
春号
令和2年
(2020年)

環境ひらかた



ひらかたエコフォーラム 2020



環境についてのいろいろな情報を共有しました



去る2月8日、第14回「ひらかたエコフォーラム2020」を、メセナ枚方会館にて開催しました。新型コロナウイルスが心配されましたが、今のように問題が大きくなる前でもあり、予定通り実施し、300名を超える来場者でにぎわいました。

午前の部の「学校園環境表彰」では、他校の規範となる特色ある環境活動に熱心に取り組んでいる市内学校園 10校が、また、「枚方市環境表彰」では、「地球温暖化防止」「自然環境保護」「環境教育・啓発」などの分野で環境保全に貢献している個人1名と、1団体が表彰されました。(受賞校及び受賞者は2面に記載)そして、午後の部のシンポジウム&ワークショップには50名弱の参加があり、近年大型化している自然災害を例に、こうした災害に如何に備えるか、どのようにして減災するかなど、参加者同士意見を出し合うと共に、自然災害と温暖化の問題について考える場となりました。



～総会のご案内～

2020年度通常総会を5月30日(土)10時30分から、環境保全研修室(サブリ村野2階環境情報コーナー隣)にて開催します。総会后には恒例となった交流会もあります。年に1度多くの方との顔合わせの機会でもありますので、ぜひ皆さんご参加ください。

*****目次*****

エコフォーラム開催	P 1
エコフォーラム 2020 報告・環境 tea room・	
環境ミニ講座 報告	P 2・3
各部会報告	P 4・5
お知らせコーナー	P 6
環境トピックス VOL.31	P 7
環境ミニ知識	P 8

エコフォーラム 2020

【学校園環境表彰】

【枚方市環境表彰】

市長賞

- ・蹉跎幼稚園
- ・桜丘小学校
- ・蹉跎小学校
- ・長尾小学校
- ・招堤中学校

教育委員会賞

- ・蹉跎西幼稚園
- ・川越小学校
- ・樟葉北小学校
- ・牧野小学校
- ・第三中学校

- ・国際ソロプチミスト
枚方ー中央
- ・前川 勝人



子ども用品リユースコーナー

ブースラリーや、クラフト体験、いろんなブースで環境について情報や意識を持ってもらえました。



昨年 6 月環境情報コーナーにオープンした「子供用品リユースコーナー」がエコフォーラム会場に出張オープン！多くの方で賑わいました。



*環境ミニ講座 報告

レンジで簡単！お団子づくり

国産材料でエコクッキング！料理を通して“エコ”を考えました



10/31

ハギレ de 一輪挿しタペストリー



2/27

すっきり片付け「終活リストアップ」



9/26



ペットボトルでクリスマス飾り

今問題になっているプラスチックについてみんなで考えました



11/28

シンポジウム&ワークショップ

さあ！みんなで考えよう！自然災害と温暖化



インターン生も参加しました



関西学院大学 1年
茶谷 龍輝

私は今回のインターンシップを通して、一人の人間として大きく成長することができたと実感しています。ひらかた環境ネットワーク会議で、地域の様々な人たちと接する中で、多くの知恵を得ることができました。また、企画書やチラシの作成、イベントへの参加を通して、人に意見を伝える際に大切な視点を手に入れることができました。

インターンシップの期間、毎日温かく接して下さったひらかた環境ネットワーク会議の方々へ深く感謝するとともに、ここで得た学びを糧に、社会に貢献できる人になりたいと強く思います。



関西学院大学 2年
村上 蓮央

今回のインターンシップで私は主に2つの学びと発見がありました。1つ目は伝えることの難しさです。どうすれば多くの人に同じように伝わるか、また共感をもってもらえるかなどを考えると、「伝える」ということの難しさが身にしみました。2つ目は「思い」(目的)を確立させることの重要性です。企画する際、必要なものや様々な条件、工程など、多くのことを考えなければいけないのですが、「思い」がしっかりしていないとどんどんブレていくことに気づきました。簡単なことのように思いますが、意外に見落としがちなので、これから企画する際などには意識していこうと思います。

短い間でしたが多くのことを学ばせていただきました。このインターンシップで学んだこと、発見したことをこれから活かしていこうと思います。皆さんありがとうございました。

環境 tea room 報告

第1回 6/13

「気になっていませんか？エコキャップの行方」

いかに多くのペットボトルが消費されているかに驚き、そのキャップや空き容器はどうなるのか？出す側はどんなことをすればいいのかを考えました。

第2回 7/11

「クールスポットについて」

夏場、公共施設等のクールスポットの活用が言われますが、そこにどんな意味があるのか？クールスポットについての考え方をいろいろと交流しました。

第3回 9/12

「家庭で簡単！生ごみ堆肥」

生ごみの対尾費化の代表格は「コンポスト」ですが、他にはどんな方法があるのか知恵を出し合い生ごみを減量することの意義について考えました。

第4回 10/10「再エネ固定価格買取制度終了」

FITが終了しました。国の政策は？市場の動きは？色々な情報を提示し、再生可能エネルギーが、今後も広がっていくのかみんなで考えました。



第5回 11/14

見学会「家電リサイクルの現場を知る」

2001年に「家電リサイクル法」が施行されました。現場ではどんな風にリサイクルされているのか？その実際を見て「ごみ」として廃棄される量の少なさにビックリ！



第6回 12/12 「ファイトケミカルって知ってる？」



最近注目されているファイトケミカルについて学び、身近な食品に含まれていることを知りました。

第7回 2/13

「目指そう！便利な暮らしとエコの両立」

あまりにも文明の利器に頼りすぎていないか？過信しすぎていないか？みんなで振り返り、昔の知恵に学ぶことも大事と気づきました。





部会活動紹介

ひらかた環境ネット会議では、それぞれテーマごとに部会を結成し、主体的に活動を行っています。

環境教育部会

出前授業の担い手さんや〜い！

環境教育部会の2大事業は、学校からの依頼によって行なう「環境出前授業」の実施と、その為のマンパワーを増強するための「くらわんか塾」の開講です。

しかしここには、大きな悩みがあります。というのは、昨今環境教育が大きくクローズアップされているにもかかわらず、「環境出前授業」への依頼が減少していること、そして、その出前授業の担い手となって頂くための講座である「くらわんか塾」の受講者が少ないということです。

学校現場では、英語教育やプログラミング教育など、新しい科目が次々と導入され、環境教育を実施するゆとりがなくなっているのかもしれませんが。しかし地球規模でSDGsが言われている中、最重要目標の一つである“環境”の取り組みがなおざりにされてはなりません。

そこで部会では、環境出前授業実施校拡大を目指し、従来同様、各学校に「環境出前授業」の紹介を行なうことに加え、今までに「環境出前授業」の依頼をいただいた担当の先生方に対し、直接働きかけを行っていかうと考えています。

また「くらわんか塾」の見直しも行い、「環境出前授業って何？」「見学だけでも参加してみようかな」「スタッフとして協力してみようかな」と思って、気軽に参加してもらえそうなラフな内容を考えています。

この記事を読んでいただいている「あなた」もぜひ一度参加して見てください！お待ちしております。



自然エネルギー部会

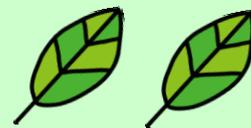
再生エネルギー推進都市 そのシンボルの必要性の可否を問う



「こもれび水路プロジェクト」として、香里団地のこもれび水路に、枚方市が再生可能エネルギー推進都市であることを、広く市民にも知ってもらうためのシンボルとなる再生可能エネルギー発電を備えた“ハイブリット型モニュメント”の設置を目指してきました。しかし今、その設置の必要性について賛否が分かれています。

はたしてそうしたモニュメントが本当に必要なのか、設置に向けてクリアしなければならない様々な問題があり、また設置後も維持管理の問題やそれに伴う経費の問題などもあることから、なかなか結論に至っていません。

皆さんはどう思われますか？ぜひご意見を、ひらかた環境ネットワーク会議 自然エネルギー部会までお寄せください。



まちづくり部会

美しく 住み続けたいまちは 自分たちの手で



まちづくり部会の活動のひとつに“まち美化活動推進事業”がありますが、部会ではこの“まち美化活動”をするに当たって、市のアダプトプログラムに加入して取り組んでいます。

「アダプトプログラム」は継続的な清掃活動を始めたい方に、清掃道具の貸与、ごみの回収、花苗の支給等、より行動しやすいよう後押しをしてくれる制度です。2020年3月1日現在で69団体が参加しています。

ところでこの「清掃活動」を始めるきっかけは、人それぞれだと思いますが、今回、その始めたきっかけを、まちづくり部会のメンバーでもあり、長年公園の清掃活動を継続している方に聞いてみました。それによると、ある日公園で散歩をしている時に、砂場で子どもを遊ばせているお母さんたちが『タバコの吸殻がたくさんあって、子どもたちを遊ばせるのが怖い』と話しているのを耳にし、子どもたちが危険ならばとゴミ拾いを始めたのがきっかけで、気が付けば10年以上続いているとのことでした。

こんな風にひとりひとりの自主的な取り組みや心がけによって、きれいなまちが維持されていくのはとても素晴らしいことだと思います。皆さんもご近所のゴミ拾いから始めてみませんか。まち美化には地域の方々の協力が欠かせません。

公共交通部会

初心に立ち返り活動を！

公共交通部会立ち上げ時の思いを、みなさんにも知ってもらいたい、思い出してもらいたいとの思いで、下記を紹介します。

「枚方市で生活していて困ることの一つに、自動車交通量の増加、集中による交通渋滞が慢性化していることがあげられます。このことは、市民生活に多大な影響を及ぼし、一人ひとりの大切な時間を奪い、経済効率の低下を招いているだけでなく、自動車の排気ガス窒素酸化物や浮遊粒子状物質などの大気汚染や地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量の増大を招いています。何とかならないのかという想いはあっても課題はあまりにも多くさまざまな領域に及んでおり、市民がかかわれる問題だという認識を持ちにくいものです。しかし、公共交通の利用促進問題一つとっても、行政だけでも事業者でも行うことができず、市民・行政・事業者の連携によってのみ、その解決の糸口を見いだすことが可能となると信じ部会を立ち上げました。」

部会の名称変更を検討している今、改めて読み返し、設立時の思いに立ち返り、初心を忘れず活動を進めたいと思っています

エコキャップから、ごみ減量と地球温暖化問題について、いっしょに考えましょう。

◆◆◆エコキャップの回収報告◆◆◆

●エコキャップ R2年1月30日搬入分

重量：200kg（取組開始からの累計 7,271.8kg）
個数：8,600個（取組開始からの累計 3,049,474個）
CO₂削減量：630kg（取組開始からの累計 22,906.17kg）

搬入したエコキャップは、再生プラスチック原料として換金され、公益社団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンに寄付され、全国で病気の子供とその家族が利用できる滞在施設の建設費及び運営に充てられます。詳しくは公益社団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのH・Pをご覧ください。

◇◆◇◆◇「エコサイクルさん」快挙◇◆◇◆◇

昨年の10月、NPO法人ひらかた環境ネットワーク会議の団体会員である「枚方エコサイクル」さんが、“リデュース・リユース・リサイクル推進功労者表彰”で会長賞を受賞されました。

この“リデュース・リユース・リサイクル推進功労者表彰”というのは、3R^{*}に率先して取り組み、顕著な実績を上げている団体を表彰し、これらの活動を奨励することを目的に実施されているものです。「枚方エコサイクル」さんの受賞テーマは「リサイクル自転車を安く市民に提供し、循環型社会の形成を図り、廃棄物の削減と資源の有効活用を図る」でした。ひらかた環境ネットワーク会議でも、市民の方からの不要自転車の引き取り依頼をエコサイクルさんに繋ぐことで、ごみ減量の一助になったのではと思っています。

今回の受賞を共に喜びたいと思います。本当におめでとうございます。

※リデュース(発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再資源化)



バスのってスタンプラリー 中止のお知らせ

4月4日(土)に開催予定しておりました「バスのって!スタンプラリー 桜めぐり」は新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となりました。



私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。今回は、「発送電分離と送配電事業」と「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」の問題です。

◆発送電分離と送配電事業

「送配電事業」という言葉を最近 TV コマーシャルで耳にされたことはありませんか？現在私たちに届けられている電気は、発電事業者の送電線を使って届いています。それが別会社の運営になるということです。

2016年に電力の自由化がスタートし、翌2017年にガスが自由化しました。そして2020年、いよいよ最終章に突入です。発電事業と送配電事業を分離させ、さらに、2020年以降には小売価格の規制の撤廃が実施されるのです。

こうした一連の流れは2015年には決められており、その決定に沿って粛々とものごとが進められているのです。私たちの周りを見回すと、「いつの間にそんなこと決まったん!？」というようなことがたくさんあります。国は勿論、地方自治体においても、国民・市民にとって不利益なことが私たちの知らない間に決まってしまうことの無いよう動きに注意を払ってほしいものです。

◆2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言

今年の2月8日に開催した環境エコフォーラムにて枚方市長が「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」をしたことをご存知の方も多いと思いますが、パリ協定を受け日本の企業でも宣言しているところが相次いでいます。

ところで、枚方市の宣言の中味はどのような内容か、みなさんはご存知でしょうか。そこでは次の3つの活動に取り組んでいくとしています。

- ・市民や市民団体、事業者と気候変動問題の課題を共有し、連携して省エネルギーなど、地球温暖化対策の取り組みを推進する。
- ・公共施設において、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの率先導入を行うと共に市民や事業者への利用拡大をはかる
- ・二酸化炭素排出削減に繋がる情報を収集し、新たな取り組みを検討する

「宣言」なので具体的なことには触れられていませんが、いずれにしても、30年先には、二酸化炭素の排出量が実質ゼロになるよう、私たち市民も行動を起こしていかなければならないのです。しかし先のエコフォーラムで行った“シンポジウム&ワークショップ”では、「以前の方が環境問題、温暖化問題に対する意識が高かったように思われる」「意識が薄れてきているのでは」という意見が出されていました。しかしその一方で着実に取り組みは進んでいます。取り組み情報に敏感になりたいものです。

環境ミニ知識

新聞、テレビ、ニュースなどで見聞きするけれど、あまり知らない「言葉」や「現象」について少し知ってもらえたらいいな！と、ミニ知識を紹介するコーナーです。



今更だけど3R, 4R って？

ごみに絡んでよく耳にするこの3Rや4Rという言葉ですが、言葉は知っているけれど、どういうことなのかと聞かれれば、わかっているようであまりよくわからないという方も多いのではないのでしょうか。3Rも4Rも共に、ごみ減量やリサイクル促進に向けての行動を促すための標語です。

3Rは 1.リデュース(Reduce):削減、 2.リユース(Reuse):再利用、 3.リサイクル(Recycle): 資源として有効利用 のことを言い、4Rは、この3つに加え リフューズ(Rfuse):断る を加えたものです。

3Rが一般的ですが、枚方市では4Rを推進しています。リサイクルが大事と思いませんか？まずは、「ごみになるものは断る」ことが一番ですね。

ちなみに、欧米での4つ目のRはリペア(Repair):修理 だそうです。

二酸化炭素排出量実質ゼロって!?

私たちの暮らしや経済活動に伴い、二酸化炭素は必ず発生します。二酸化炭素の排出をゼロにすることはできませんが、実質ゼロというのはどういうことなのでしょう。技術革新によって、排出されたCO₂の回収を加速させ、回収したCO₂の地中貯留を進める、或は森林による回収等で、排出されたCO₂を削減し実質ゼロを目指すということです。

ちなみに、「二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」をした自治体は、都道府県では大阪、京都、滋賀、東京、神奈川等17、市町村では、横浜市、川崎市、金沢市、熊本市、そして枚方市など34市。大阪では枚方市だけです。(2020年3月現在)

ひとこと



いつも春休みには、子ども達で賑やかになる環境情報コーナーが今はひっそりとしてさびいです。

環境情報コーナーがサプリ村野にOPENして、7年となりました。最初によく来ていた小学生6年生の子たちは、18歳となりました。もう大人です。遊びながらも、「お菓子の袋はプラごみに捨てや〜」「自転車こいで発電するのは大変やろ〜。電気はちゃんと消さなあかんよ〜」といった声かけを なんとなくでも覚えてくれていたらいいな。



ひらかた環境ネットワーク会議 会報「環境ひらかた」第65号

令和2年4月1日発行(年4回発行)

発行:(特活)ひらかた環境ネットワーク会議



〒573-0042 大阪府枚方市村野西町5番1号

サプリ村野内(旧村野小学校)

電話 072-847-2286

FAX 072-807-7873

Eメール jimukyoku@hirakata-kankyou.net

ホームページ <http://www.hirakata-kankyou.net>

発行責任者:伊丹 均 編集責任者:丸井 晶子

この発行誌は再生紙を使用しています